

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

1. 対象 5年生

課題に対して大変熱心に取り組むことができる。学習課題に対してじっくりと考えたり、友達と交流したりすることで考えを作り、深め合う姿が4月から増えてきた。年度当初に比べて全体で発言したり、積極的に他者と交流したりする児童が増えてきている。また、本校研修テーマ「学びが実感できる授業」の実現に向けて、子どもたちと単元のゴール(目指す姿)や付けたい力の共有や学習計画づくりを行うことで、自分たちで課題を見つけたり、課題解決に向けて対話や学習方法を選択したりして学ぶ姿が見られるようになってきている。ゴールに向けて1時間での学びを振り返り、わかったことや次の時間に取り組みたいこと、疑問などを明確にする振り返りを行うことで、学習への意欲が高まり、算数科「多角形の内角の和」の学習では、自主的に家庭学習で取り組む姿や休み時間や授業前から問題を考える姿など、主体的・意欲的に学びに向かう姿が見られた。国語科においても、その単元で身に付ける力を自分たちの言葉に置き換え、どのように教材文を読むのか、教材文からどのような学びがあればゴールの課題を達成して力を身に付けることができるのかを意識して授業の臨むことができるようになってきているため、本単元の授業でも、子供たち一人一人が自分事として学びを捉え、どのように学んでいくのかを大切にしていきたい。

2. 単元名 「伝記を読み、自分の生き方について考えよう ～「きみたちはどう生きるか 5-1集」を作成しよう～

教材名「やなせたかし アンパンマンの勇気」(光村図書5年) (全6時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	普段なにげなく使っている言葉も、じっくりと考えたり正しい意味を知ったりすることで、感じ方や受け取り方が変わるから、言葉に込められた意味について考えて学ぶことができた。
思考力, 判断力, 表現力等	人物の生い立ちや功績(人のためになること)、大事にしていることや考え方を読むことで、その人物の生き方を知ることができた。自分だったらどうするかなど、自分の生活と比べることで、自分の考えをもつことができた。
学びに向かう力, 人間性等	人物の行ったことや生き方を知ること、自分にもできそうなことやこれから大切にしていきたいことなどを見付けることができた。他の伝記を読むことで、色々な生き方を学べそうだから、読んでみたいと思った。

4. 授業展開【 本時 ・ **単元** 】

解決したい課題や問い

単元を貫く課題「伝記を読み、人物の生き方について知り、自分の考えをまとめよう」

1 「どんな視点で伝記を読めばいいのだろう」= 生き方を知るために必要なことは何か。

※現時点での「功績」「生き方(考え方や思い)」「筆者の考え」「自分の考え」を書いてみる。

2 「やなせたかしはどんな人物なのだろう(業績、一生)」

3 「やなせたかしはどんなのだろう(考え方や思い、生き方や出来事)」

※なぜ、それを大切にしていたか理由を述べる際に、人物の生い立ちや経験が根拠になる

4 「筆者はやなせたかしのどこに一番魅力を感じたのだろう」

※筆者が伝記にしたいと思ったやなせたかしの生き方や考え方を捉える。

☆2、3、4を自己調整学習とし、自分の伝記についてまとめる時に必要な部分をやなせたかしの学習を通して学ぶようにする。

5 「あなたはやなせたかしの生き方にどのような考え(共感や敬意)をもったか」

※叙述を根拠に考えをつくることや、自分の経験と重ねて考えをつくるようにする。

☆前半は、やなせたかしの生き方や筆者の捉え方を確認し、それを踏まえて自分がどのように感じたのかを考えるようにする。

6、7 「あなたの伝記の人物の生き方について、自分の考えをまとめよう」→「読み合おう」

考えるための材料

- A 自分の興味のある人物の伝記を個々に選ぶことで、主体的に学習に取り組んだり、他者の成果物を見ることで多様な考えに触れたりすることができる。
- B 伝記を読んで考えをまとめるときの視点「功績」「大切にしていること・考え」「筆者の考え」「自分の感想」を明確にすることで、自分の伝記を読む際にも同じ視点で読むことができる。
- C 自分の伝記についての考えを第1時でまとめておくことで、必要感や切実感をもって教材文の学習に取り組んだり、常にゴールを意識して学習に取り組んだりすることができる。
- C 「功績の理由」について考えることで、「人物の大切にしていることや考え＝信念」を読み取り、それが人物の生い立ちや経験によってできたことを理解する。
- D 「筆者の考え」＝その人物の伝記を書こうと思ったのか＝人物の魅力(生き方や考え方等)を考えることで、伝記の人物の生き方、考え方や思いを根拠に読み取ることにつながる。
- E 「やなせたかし」の伝記を使って自己調整学習と全体学習を意図的に組み合わせることで、考えを交流したり、全体で確認したりすることを通して、自分の伝記を読んだり考えをまとめたりする際に、既習事項を活用することができる。

想定される活動

赤が材料 青が想定される活動や表れ

対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

第2時から第4時は自己調整学習の形態をとり、自分に必要な「対話」を選択して学習に取り組むこととする。また、第5時の「自分はどのように考えるか」の部分では、叙述や自己の経験を根拠に他者と対話をすることで、考えを明確にしたり、広げたりすることにつながる。

・「やなせたかしの生き方(考え方や願い)」「筆者がどのように人物について考えているか」が自分の伝記を読む上での中心になるため、材との対話、他者との対話に加えて、全体でも共有する時間を設定する。

☆「大切にしていることは○○だと思う。理由は、・・・」

☆「大切にしていることって、どれも相手のことを思いやること」「自分よりも相手のことを考えるってことじゃない」「それが本当の正義だと考えているんだ」

・「人物の生き方に対する自分の考え」の学習では、叙述を基に考えを作ったり、自分の考えと照らし合わせて考えることが中心となるため、「材との対話」「自己との対話」を十分に取った上で、他者との対話を行う→共通していることなど焦点化、全体で共有等

☆「わたしは、やなせさんの○○な部分を～～だと思った。なぜなら、自分だったら・・・」

・完成した友達同士で読み合い、感想を伝え合う。(他者との対話)

※全員は時間的に厳しいため、朝読書の時間を使って読み合いをする。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

「その人物の功績」や「人物が大切にしていること」は、それまでの生き方や経験が大きく関わっているんだなと思った。伝記の人物の「どんな困難なことがあっても、常に前向きに、あきらめないで挑戦する」という生き方には本当にすごいと思った。自分は似たような場面であきらめてしまうから、これからの生活では、あきらめずに挑戦することを少しでもやってみたいなと思った。伝記には色々な人がいて、それと色々な生き方があると分かったので、他にも伝記を読んだり、生き方を聞いたりしてみたいと思った。